

日本ユニシス株式会社

2014年3月期 第1四半期 決算説明会（2013年7月31日開催）

主な質疑応答

（ご理解いただきやすいよう表現を変更している箇所があります。）

【質問者 A】

Q: 1Q は、大型インフラ更改案件の反動減が大きく出ると思っていたが、製品（ソフトウェア、ハードウェア）が思ったほど落ち込んでいない。6月に入って、何らかの大型案件が計上されたのか？

A: 5月までは、前期の大型インフラ更改案件の反動減が顕著に出ており、前年同期比で減収減益であったが、6月末に金融機関向けの大型更改案件が前倒しで計上できたのに加え、システムサービスが想定を上回ったことから、4-6月では増収増益を確保できた。

Q: 1Q でのシステムサービスの不採算案件の規模を教えてください。

A: 2年前に戦略的に受注した案件1件に対し、11.8億円の追加引当てを行ったが、この案件は既に稼働し体制も縮小しており、通期の見込額は変更していない。

【質問者 B】

Q: 御社公表の上期営業利益予想が25億円で据え置かれているので、1Qの営業利益がこれまでにない高水準であったことから、2Qの営業利益見通しは11億円と低水準になっている。これは、2Qで何らかのマイナス要因が見えているということか？

A: 2Qは、前期の大型インフラ更改案件の反動減が大きいことに対して、今期は大型案件の計上予定もないことから、製品関連は厳しい状況である。サービスでの中小型案件を積み上げて、何とか上積みを目指したい。

Q: システムサービスは、受注残も伸びていることから、2Qで悪化する要因はないと考えて良いか？

A: 受注環境が改善してきていることもあり、1Qにおいても中小型案件中心に受注増となり、売上高のプラス12%の伸びにつながっている。

（注）本資料で記述しております業績見通し等の予測数値は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、実際の業績は、本資料における見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

【質問者C】

Q: 2Qの製品関連(ソフトウェア、ハードウェア)について、利益面での見通しを確認したい。

A: 製品関連は、2Qでの大型案件が見えていないこともあり、反動減分がそのまま出る見通しである。前期に計上した大型更改案件は高採算だったため、製品の売上総利益率も低下する見込み。製品の落ち込み分をサービスでどれだけ埋めていけるかが、2Qのカギである。

【質問者A】

Q: 追加でひとつ質問したい。今期は不採算案件の減少だけで大きな増益要因になりそうだが、それ以外の営業利益の増減要因を確認させてほしい。

A: 下期の営業利益は、前年同期比 54 億円の増益を見込んでいる。売上総利益は、不採算の減少に加え、受注環境の好転等による増収効果から、前年同期比 63 億円の増益を見込んでいる。一方で、営業強化に向けて先行投資していることもあり、販管費は前年同期比で 9 億円の増加を見込んでいる。

(注)本資料で記述しております業績見通し等の予測数値は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、実際の業績は、本資料における見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。